

平成24年度道徳教育研究協議会指導講評より

<指導のポイント（抜粋）>

1 「道徳の時間」について

【授業を行う前に】

○道徳の時間について

- ・道徳の時間は、学校の全教育活動を通じて行う道徳教育を補充、深化、統合するもので、計画的、発展的に指導することが大切です。
- ・道徳の時間は、人間としての生き方を共に考える時間で、ねらいを明確にすることが大切です。
- ・道徳の時間は資料で学ぶことが大切です。
- ・「少しずつ灯をともし、大きくしていく」「すぐ植えたから育つのではなく、世話をし、手間をかけて育てていく」という姿勢が大切です。

○学級経営について

- ・他の意見を聞いて考えを深めることができるように、信頼関係や授業規律など望ましい学級経営を常日頃から進め、安心して本音が言え、お互いに認め合い、よりよいものを求めていく環境をつくることが大切です。
- ・教師の姿勢として、子どもの意見を受容すること、信頼関係を築くこと、自分自身が学ぶ姿勢でいることが大切です。

○オリエンテーションについて

- ・年度当初、心構えについて、何を学習する時間なのか確認することにより、こどもの道徳の時間に対する姿勢が変わってきます。

○事前アンケートについて

- ・こどもの傾向、実態を把握するのに有効です。導入で活用する場合、主題に関するこどもの学習意欲を高める工夫が大切です。

○低学年の児童の特性について

- ・今回の協議会で使った「だいじなおかしも」のねらいは、みんなで約束や規則を守ろうですが、発達段階を考慮して避難訓練に絞ってもよいと思います。
- ・低学年の導入で視覚に訴える方法、例えば今回行われた紙芝居は児童に分かりやすい方法を考えておくことは大切です。

○指導案の作成について（例）

指導案作成にあたっては、次のような手順、考慮した点が考えられます。

①資料分析の手順

- ・資料の筋の流れの把握→主人公の心の動き→中心場面→道徳的価値→発問の意図
- ・指導案にわかりやすい資料分析表を記載

②指導案作成の手順

- ・年間指導計画に示された主題のねらいの検討
- ・ねらいと学級の実態及び各教科や特別活動等での指導との関連を検討、指導の要点の明確化
- ・子どもの反応を予想して展開の概要及び事前・事後指導について検討

③主題設定の理由

- ・価値観について
ねらいとする価値が道徳教育上どのような価値をもつか、その時間に取り上げた理由などを押さえる。
- ・児童生徒の実態について
ねらいに関しての実態や児童の発達の段階を踏まえ、そのねらいを身に付けさせたい必要性を明確にする。
- ・資料について
資料の内容を要約し、選択した理由や活用していく視点を押さえる。

【授業中】

○導入について

- ・ねらいとする価値に興味・関心を持たせる、ねらいとする価値への方向付けをするという視点

が大切です。

- ・生活体験の想起、教師の話、事前アンケート、ビデオ画像、スライド、写真など様々な指導法の工夫が考えられます。
- ・短時間で効果的に行うことも大切です。

○場面絵について

- ・見やすく、その場面を理解しやすいものにします。
- ・児童が発表した意見の場面絵を出す方法もあります。

○範読について

- ・教師が読み込んだ状態での範読をすることが大切です。1回範読しただけで、話の内容を理解させる必要があります。
- ・範読の際、話し合いたい部分にマーカーをひかせることも考えられます。

○柱立てについて

- ・葛藤場面と関わってきます。道徳は人間の弱さを感じ取らせることができます。人間として何が大切なのか、ねらいを踏まえて明確にしていくことが大切です。
- ・授業をタイトにデザインします。ねらいを柱として内容を絞って行います。
- ・児童の発言を生かした柱立ても考えられます。

○発問について

- ・ねらいを踏まえ、中心発問を明確にし、言葉の吟味をしていくことは大切です。
- ・葛藤場面での心の動きを、児童の心を揺さぶる発問をすることで考えを深めていくことが考えられます。
- ・一問一答式から一問多答式になる発問の工夫を考えると、こどもの考えが深まります。
- ・中心発問での内容を充実させるための、基本発問、補助発問を考えていきます。
- ・何を聞きたいのかを明確にし、ぶれないことも大切です。
- ・沈黙してしまうことを恐れないことも大切です。
- ・考えさせる時間をしっかりととる、間をとることが大切です。
- ・発言した生徒の心を傷つけないように教師の言葉など配慮をする必要があります。

○話し合いについて

- ・ペア、3人、班、学級全体など様々な形態での話し合いが考えられます。
- ・何を話し合わせたいのか、どのような議論になるとよいのか教師がビジョンを持っていることが大切です。
- ・話し合いの中でこどもが自己を語ることは大切です。

○役割演技について

- ・言語活動の充実や主人公の心情の理解を図るための役割演技は効果的です。
- ・教師が目的を明確にして行うことが大切です。
- ・役割演技をした子だけでなく、見ている子がどう思ったか等共有を図り、感じたこと、考えたことを広め、深めていくことが大切です。

○書くことについて

- ・こどもが書く内容がわかるように、ねらいを明確にした上で具体的に指示をします。
- ・書かせる場合は、こどもの負担にならない、書くことに必要以上に時間を取られないように、書く量を配慮します。
- ・目的としては、話し合いに生かす、自己を見つめることが考えられます。

○板書について

- ・葛藤のところで主人公の気持ちを色で表すことも考えられます。
プラスはピンク、マイナスはブルーなど
- ・授業の最後の時の板書が、どのような内容の授業だったのか、すぐにわかるように整理されてあることが大切です。その意味で板書計画を事前に考えておくことは有効です。

○終末について

- ・道徳的実践力をさらに高めることが大切です。BGMを流したり、地域・家庭と連携したりしてゲストティーチャーとして話してもらうことが考えられます。
- ・説話として使えるような資料を普段から保存をしたり、先生同士で資料を共有したりすることが個人や学校全体にとって有効です。
- ・まとめ方として、価値の押しつけにならないように留意するようにします。

2 道徳教育推進について

【校内体制、連携について】

○道徳教育推進教師として

- ・全員の先生の道徳の時間の授業力向上を図ることが大切です。
- ・〇〇学校スタイルとして道徳の時間の進め方について共通理解を図ることも考えられます。
- ・ある程度マニュアルが必要です。型をしっかり覚えた後に型破りになれるという言葉もあります。
- ・1人でやろうとせず、管理職と相談しながら、学校が組織的、協力的に取り組めるようにすることが大切です。
- ・9年間を見通した道徳教育を推進する上で、小中の連携を図っていくことが大切です。

○家庭、地域との連携について

- ・土曜日の公開授業など学校の取り組みの理解を図ることが大切です。
- ・学校と家庭、地域とが双方向の連携を図ることが道徳教育の推進につながります。

○ゲストティーチャーについて

- ・保護者、地域の方との連携を図るといふ点で活用をすることは大切です。
- ・行う際には、事前の十分な打合せが必要です。
- ・校内にもゲストティーチャーとして依頼できる人が多くいます。

○小中学校の連携について

- ・まずは、お互いの授業を見合うことから始めましょう。
- ・小学校の先生が中学校で、中学校の先生が小学校で授業をすることも連携を進める手段として有効です。

【評価について】

○道徳教育における評価の意義について

〈学習指導要領より〉

- ・児童（生徒）のよい点や進歩の状況などを積極的に評価するとともに、指導の過程や成果を評価し、指導の改善を行い学習意欲の向上に生かすようにすること
 - ・児童（生徒）の道徳性については、常にその実態を把握して指導に生かすよう努める必要がある。ただし、道徳の時間に関して数値などの評価を行わないものとする。
- 上記の学習指導要領の記述を踏まえ、①児童（生徒）側の評価 児童（生徒）がよりよい生き方を求めていくことを勇気付けるためのもの ②教師側の評価 指導の改善を図っていくためのものの2点を意識して進めて行くことが大切です。

【資料の活用について】

○国、県の資料について

- ・心のノート
 - ・彩の国の道徳、家庭用彩の国の道徳
 - ・教育課程に関する県の4部作の資料
- これらの資料に目を通し、活用していくことが大切です。

○彩の国の道徳「心の絆」について

- ・3月11日は子どもたちにとって大きな経験。これを教材化して活用を進めてください。
- ・当日やその後に児童がどのように過ごしていたか実態把握しておくことが大切です。
- ・取扱いの留意点を参考に、児童の実態を配慮して授業を進めることが重要です。
- ・震災の映像が刺激的すぎると教師が考える場合は、写真に変更することも一案です。

○県の実践事例集について

- ・最新のものなので是非活用をしてほしいです。
- ・役割演技(P.164)やペア・小集団(P165)についての指導事例、学校、家庭、地域が一体となった取組(小学校 P172 中学校 P173)など具体的な内容が載っています。

○心のノートについて

- ・歌や詩など活用ができるものがあるので、活用を進めてください。